

学校経営
ビジョン

○ 子ども、先生、保護者地域 みんな幸せ栗須小

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知育	重点目標 ○ 「学びたい」意欲をもって、主体的かつ積極的に学習し、着実に学力を身に付けていく児童の育成（ひなたの学びの推進） 手段 1 授業の充実・改善・・・規律と活気があり「わかる・できる」授業 2 家庭学習の徹底（宿題、読み声、日記） 3 読解力向上プロジェクトの全校的な取組の推進（「栗つこタイム」「パワーアップタイム」の実施） 4 読書の推進「読み聞かせ」、図書館協力員との連携 等 5 新聞の活用 6 ICTの有効な日常活用 ～タブレットPC活用充実 7 特別支援教育を意識した学習指導の充実「すべての児童に学力を」 8 キャリア教育の充実	1について 3. 0 ○ 学級担任が選択した教科等で、個人研究の形で授業改善を図ってきた。学校訪問で指導主事の方等に授業を見ていただき、授業力の向上、児童の学力向上につながったと考える。今後も継続して行っていく。 ○ えんぴつの正しい持ち方について、現在1年 36%、2年 50%にとどまっているのでより意識的な指導を継続していきたい。 2について 3. 0 ○ 各学年、おおむね家庭学習が習慣化しているようだが、個に応じた家庭学習の取り組みせ方についてさらに研究が必要である。 3について 3. 1 ○ 朝のパワーアップタイムでは、基礎学力を定着するための時間が確保できた。より個に応じた課題に取り組みせる等、さらに学力向上につなげていく。 4について 3. 4 ○ 12月末現在、児童1人あたりの貸出冊数82.5冊である。 5について 2. 7 ○ 新聞を活用した取組があまりできなかった学年もあった。新聞投稿は積極的に行い、現在5名が掲載。 6について 3. 2 ○ 教員、児童共にタブレット活用のスキルはが高まっているが、今後、生成AIの導入等さらに発展的な活用法について研究する必要がある。 7について 3. 4 ○ 2名の支援員を状況に応じて配置することができた。学習支援ボランティアの効果的な活用について、今後さらに検討を進めていく。 8について 2. 8 ○ 高学年においては、全教育活動を通して、常に将来を見据えた学習活動を意識しながら実施することができた。	3.1	3.3	1 えんぴつの持ち方については、1年生と2年生だけの数字が記載されていますが、他の学年（全学年）の数字も気になります。 ※ はしの持ち方についても指導をお願いします。 1 えんぴつ、はしの正しい持ち方が身に付くことはとてもよいことだと思います。低学年のうちに習得が難しいならば、引き続き指導をお願いしたいです。 1 「話を聞く」態度をしっかりとれるようになってほしいので、何と言ったかを聞き直したり、聞いたことについてどう思ったかなど、きちんと聞かなくてはわからないことを実感できるような聞くことの大切さを伝えてほしいです。 1 学年で差があるでしょうが、落ち着いた雰囲気での授業ができるように指導をお願いしたいです。 2 家庭での学習が宿題だけに留まってしまうので、たまに多めに宿題を出してほしいです。 3 「朝のパワーアップタイム」ありがとうございます。よろしくお願いします。 3 学校の教育方針、児童のニーズに応じたカリキュラムが実施されていると思います。 3 国語の文章を読んで問題を解くことに、なかなか苦戦しています。読解力がついていない感じがします。 4 貸出冊数が多いと感じました。引き続き読書の推進をお願いします。 4 本をたくさん読んでいて素晴らしいです。歴史の本が充実していると子どもから聞いています。ありがたいです。 4 「本を読むことの大切さ」について家庭でも時間を作ってほしいと思います。学校でもぜひ時間を作ってほしいと思います。 6 タブレットのスキルが高いと感じました。今後使用する機会が増加すると思われるので、引き続きタブレットにふれる機会を多く作っていただけると助かります。 6 ICTの活用で、よりよい学習になっていくと良いです。 6 参考として、文科省が発表した生成AIの利活用に関するガイドライン、サポート体制があります。 6 最近ほとんどの子供たちが、タブレットPCに手慣れた感じで使いこなしていると思います。 7 学習支援ボランティアの先生に感謝です。ありがとうございます。 7 個々の学力や理解力に応じた支援や指導が大切だと思います。学習支援ボランティアを活用し、柔軟に対応ができると良いですね。 8 キャリア教育で、外部講師の講演等あれば保護者も出席させて頂きたいです。 8 児童一人ひとりの特性や興味・関心に基づいた学びの提供がなされていると思います。

德育	重点目標 ○ 自他のいのちやきまり、礼儀を尊重し、日々実践する児童の育成 手段 1 気持ちのこもったあいさつ、返事、会釈の徹底 2 児童の実態に基づいた道徳教育・人権教育の充実 3 いじめ・不登校に関する指導の充実 4 清掃指導の徹底（一所懸命、無言清掃 等） 5 きまりの徹底（「栗須小学校のきまり」 等） 6 安全指導の徹底（栗須小安全マーク・「0の約束」）	1について 3. 3 ○ 進んであいさつできる児童が増え、元気で気持ちよくあいさつできる児童も増える。この雰囲気を広げるべく今後も日常指導を心がけていく。 2について 3. 2 ○ 人権週間を設定し、道徳の時間等において差別や人権に関する内容を取り上げることによって児童の人権感覚を高めることができた。 3について 3. 8 ○ 不登校については、保護者やスクールソーシャルワーカー等と連携を取り、本人の気持ちに寄り添いながら、今後も解決への道を模索していく。 4について 3. 3 ○ 縦割り清掃を実施し、上級生が下級生に教える等、望ましい「縦の関わり合い」を意識した取組を行っている。 5について 3. 3 ○ きまりについては、「教えること」と「考えさせること」を児童の発達段階に応じてこれからも指導していく。 6について 3. 2 ○ 班長を中心とした登校班については、まだ課題はあるが、校外での交通安全や学校で安全に過ごすことについての児童の意識は高まってきている。	3.4	3.6	1 自分から積極的にあいさつができる子供が増えたらいいのですが、なかなか難しいようで、こちらからあいさつをしたら、ようやく返ってくる感じです。「あいさつは自分が先に！！」という意識付けが大切だと思います。 1 元気の良いあいさつができる子供たちが多く、とてもうれしいです。素晴らしいです。 1 進んであいさつができる子供たちが増えたのは、すごく良いことだと思います。 2 道徳で人の心を大切にすることや物を大切にすることなど、家庭でも重ねて指導をしたいです。思いやりを学んでほしいです。 3 不登校の家庭は、本人も保護者も苦しい思いがあると思います。本人の気持ちに寄り添い、登校できた時はクラスの子供たちが、その子を受け入れる雰囲気を作ることも大切だと思います。 6 登下校は道路にはみ出る事なく列になって安全に気をつけている様子です。どうしても交通量が多い時間なので、安全に登校できるように登下校してほしいです。 6 登校時、中学生と時間が重なるため、すれ違うのに大変だろうなあと思う場面があります。地区によっては保護者にも情報を共有し、家庭での声かけもお願いしたら良いかと思います。 6 去年8月、今年1月に発生した日向灘地震があり、児童の安全確保が重要となっています。登下校の道路、周辺の状況を把握しておくことが必要かと思います。防災教育について、定期的な実施、関係団体、行政機関とも連携した体験型等で災害に対する自負を深める教育を充実させていくことが大切かと思います。
項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	具体的な数値目標等及び取組	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
体育	重点目標 ○ 自分の身体の状態に関心をもち、健康の保持増進や体力の向上に進んで取り組む児童の育成 手段 1 集団行動の基本様式の定着 2 体力・運動能力の向上 3 感染症や熱中症予防と対応 4 疾病治療の推進 ※治療率90% 5 立腰の徹底 6 肥満傾向児への個別指導の実施	1について 3. 0 ○ 運動会練習や体育の授業の中で、集団行動の基本様式の定着を図ってきた。 2について 3. 0 ○ 体育主任が課題を克服するために、児童に興味をもたせる手立てを工夫したところ「握力」や「上体起こし」において向上が見られた。今後は「柔軟性」や「瞬発力」を向上させるための手立てを考える必要がある。 3について 3. 8 ○ 暑さが厳しい時期には、熱中症警戒アラートに従い、体育や昼休みの外遊び時間の制限を行った。冬場の感染症対策として学年間の交流を制限したり、マスク着用や手指消毒等をこまめに呼びかけたりした。 4について 3. 0 ○ 歯科治療については1月現在50.5%である。年度末まで各家庭に対し、治療の勧めを行っていく。 5について 2. 9 ○ 立腰についての自己評価は、児童は78%だが、職員は70%であった。児童の意識を変える指導の工夫と職員の根気強い指導が今後も必要である。 6について 2. 5 ○ 肥満傾向児童への個別指導については、保護者の協力を得ながら、今後も関係諸機関との連携を図っていく。	3.0	3.0	1 降水量や練習時間、環境変化への対応等を考えると5月開催の運動会は厳しいと思いました。弁当はあった方が子供のためにはいいと思います。グラウンドや体育館で食べること、お店で食べることは全くの別物だと思います。子供の楽しかった思い出のためにも引き続き弁当ありの運動会を希望します。 1 集団行動で社会を生きていく事が多いので学ぶことを大切にしていきたいです。 1 体育の授業で、細やかな手立てを考えた授業をされていることにびっくりしました。ありがとうございます。うれしいです。 1 朝夕、出会える子供たちは少ないですが、校内で学童の迎えの時など、元気よくあいさつしてくれます。 2 体力テストを毎年楽しみにしているようです。柔軟性や瞬発力は家庭ではなかなかアドバイスできないので教えて頂けるとありがたいです。 2・3 夏の暑期中、体育の授業をするのに、すごく悩まれていると思います。熱中症対策を行いながらの授業は大変だと思いますが、工夫した対応をお願いします。 4 歯科治療の50.5%は少ないですね。むし歯がなくても長期休みに定期健診に行くと良いと思います。通信等でお知らせしてもいいのではなかろうか。 5 立腰もですが、授業を受ける姿勢を時には厳しく指導して欲しいです。 6 肥満傾向児童が増えたように感じます。保護者の協力が不可欠ですが、時々ヘルシーレシピなど掲載してみてもどうでしょうか。

食育	重点目標 ○ 食に感心をもち、望ましい食習慣を実践する児童の育成	1)について3. 4 ○ 栄養教諭と養護教諭が各学年に入り、全学年で参観日に食に関する授業を行うことができ、児童や保護者に対して食への関心を高めることができた。	3.3	3.6	1 添加物についても食の授業でふれていただけると助かります。 1 毎年食育の授業を参観させて頂いて、とても参考になっています。親としても 食事への意識が高まっています 。ありがとうございます。 3 「食について考える」取組も親子で話し合って楽しく実施できました。 3、4 これからも継続していただきたいです。 農家の家庭も少なくなっている ので、 知って経験するのは良いこと だと思います。 4 種まきから収穫までを子供達に経験させていただき感謝しております。引き続き体験活動よろしく願います。 4 種からの米づくりは、 栗須小学校の自慢の取組 です。今後も皆で協力して続けていきたいです。 4 種まきから収穫まで全学年がかわれるのはすごく良いことだと思います。今後も継続していただきたいです。 6 朝の忙しい時間、難しいと思いますが「大事な朝食」？かな～と思います。 6 朝食の摂食率が高いのはすばらしいと思います。 各家庭、様々な就業形態だと思うので、食事内容については無理のないよう少しずつの啓発が良いのでは と思います。 (食育全体について) 「食べることは体を作ること」などの基本的な指導をしてもらえないでしょうか。
	手段 1 T Tによる食に関する授業の推進 2 給食の時間の指導の充実 ※ 食事のマナーと残食改善 3 「食について考える日」の推進 4 米作りや交流給食等の食に関する体験活動の充実 5 個別の相談指導の充実 6 朝食指導の充実	2)について3. 4 ○ 各学級で食べられる量を最初に自分で調整し、余った分はおかわりにするなどの対応をとることをとおして、残食の減少につなげることができた。 3)について3. 6 ○ 夏季休業中に「食について考える日」を設け、コースを選択するそれぞれの家庭に合った取り組み方で実施することができた。 4)について3. 5 ○ 毎年恒例の稲作は、本年度も5年生の種まきからスタートし、田植え、稲刈りと多くの関係機関のご協力の基、全校で行うことができた。 5)について2. 8 ○ (体育の部、6について参照。) 6)について3. 2 ○ 朝食については、下学年が9 5 %、上学年が9 5 %の摂食率を維持しているが、朝食の内容についても言及し、今後さらに啓発していく必要がある。			
その他	○ 人材育成・働き方改革について 手段 1 授業力向上をモットーに、一人一人が授業実践を積み重ねることで、全職員の授業力の向上を図ると共に、授業論文応募へ積極的に取り組む。 3.1 2 相互授業参観の日常化と授業研究会の充実。 2. 7 3 職員一人一人のライフステージにおける指標を理解させ、教職員評価制度等を通して、それぞれのキャリアデザインを描かせる。 2. 8 4 明るい職員室の雰囲気作りに努め、職員間の風通しをよくするとともに、月4 5時間以上残業する職員「0」を目指す。 3. 6 5 I C T活用やペーパーレスによる会議の簡略化と職員同士の連携を強化する。 3. 5 6 業務の平準化と協働体制の強化等による時間外勤務の縮減と、放課後の時間確保に努める。 3. 3 7 統合型校務支援システムを有効活用する。 3. 6		3.2	3.4	○ 朝早くから横断歩道に立っていただき感謝申し上げます。 ○ 働き方改革を考えながらの教材研究や事務作業等、とても大変だと思います。いつも子供たちのためにありがとうございます。 ○ 先生方の時間外のお仕事もたくさんある中で、色々な面に気を配られて勤務されているので申し訳ない気持ちです。ありがとうございます。 ○ 子供たちに真剣に向き合い、指導や関わりをもっていただいてありがとうございます。ご自身の健康や家族との時間も大切にされて、栗須小の子供たちのために、温かいご指導を今後もお願い致します。 ○ 教職員の長時間労働、職場環境が自己評価で改善されていますね。今後も 先生方の心理的なサポート体制の充実強化 をお願いします。

次年度の方向性についての校長所見	次年度も栗須小学校の伝統である『凡事徹底』『共同助力』を基盤とした指導による『未来を生き抜くための確かな学力、豊かな心、たくましいからだをもった児童』の育成を目指しながら、児童が「安心して登校、楽しく学校生活」を送ることができる学校づくりを行っていく。また、以下の3点については、特に具体的な取組を行う。 ① 児童の基本的な生活習慣と学力の向上・・・「気持ちのよいあいさつ」を基盤に、児童の望ましい生活習慣や態度の育成に努めることを通して、やるべきことに打ち込む習慣や態度を育成し、学力向上を目指す。 ② スクールスポーツプランを活かした児童の体力の向上・・・児童の実態を基に作成した「スクールスポーツプラン」を活かしながら、児童が気候に合わせて1年間運動を楽しめるシステムを構築する。 ③ 人材育成・働き方改革・・・教職員の授業力（指導力）向上と長所発揮をねらったOJTの場を確保するとともに、業務の平準化と協働体制の強化に努め、健康でやりがいをもって能力を発揮できる環境を整備する。
------------------	---